

③⑥ 地域と共に運営する次代の都市公園整備・管理手法

受賞機関 仙台市

キーワード 公園の高質化、民間スポーツ施設、地域との協働

全建賞審査委員会の評価ポイント

身近な街区公園を地域が主体となり行政と連携し、公園の高質化を目指す公園管理の取組み。民間組織が街区公園内でスポーツ施設を設置・運営するという全国初の取組みを実施し、施設の運営収益を公園全体の維持管理に還元しており、地域と協働し継続的に発展する「地域マネジメント」に取り組んでおり、今後都市公園のみならず近隣への派生により都市インフラの一層の活用が期待できる点が評価された。

1. はじめに

街区公園は、都市公園のなかでは一番小規模で身近にある公園である。その、身近な街区公園を、仙台市では地域と連携して公園の高質化を目指す地域主体の公園管理・取組みを始めた。周辺へのにじみ出し効果と併せて紹介する。

2. 事業の概要

公園面積7,150㎡の街区公園「荒井東1号公園」において、民間組織である「一般社団法人荒井タウンマネジメント」が都市公園内でスポーツ施設を設置・運営するという全国初の取組みを実施している。

「荒井タウンマネジメント」は施設を運営して、その収益を公園全体の維持管理に還元しており、また地域と

協働し継続的に発展する「地域マネジメント」に取り組んでいる。

3. 事業の成果

公園を継続的に高品質に運営していくためには、TMと行政とがパートナーとなって公園・地域づくりに取り組んでいく必要があることから、都市利便増進施設以外の公園の維持管理について、協定の実施細目を定め、連携していくことで、公園の高品質化、ブランディング化にも繋げる。

地域に根差したTMが公園マネジメントプレイヤーとなることで、常に公園で賑わいが生まれるのは勿論の事、TMが隣接エリアで地産地消マルシェの定期的な展開するなどより良い住民のための公園運営が期待される。



ポニーとのふれあい

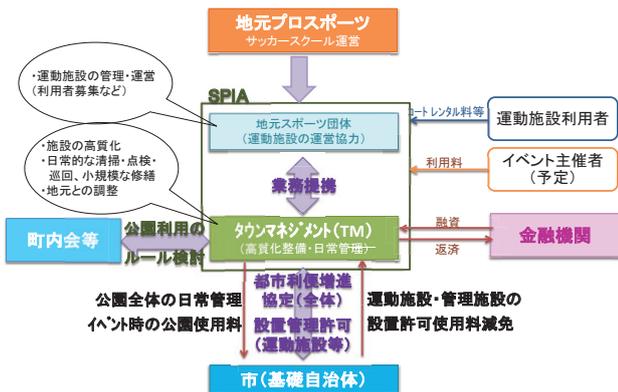
キッズ落書きコーナー



近隣施設での定期的なマルシェ開催



公園オープニング時にキッズがペイントしたもの



公園マネジメントスキーム



スポーツふれあいイベント

大人のフットサル(夜間)

4. おわりに

都市利便増進協定を使ったこの取組みは、公園のみをターゲットにした訳ではなく、道路、広場など周辺の都市インフラ全体を狙った取組みである。これらの取組みは、全国どこにでもある身近な公園を民と官が施工時点からパートナーシップを図りつつ、常に、エリア全体を見つめながら共にまちづくりに挑戦していくものであることから、今後の公園整備建設の技術発展に寄与するための仙台市の市民協働の挑戦である。